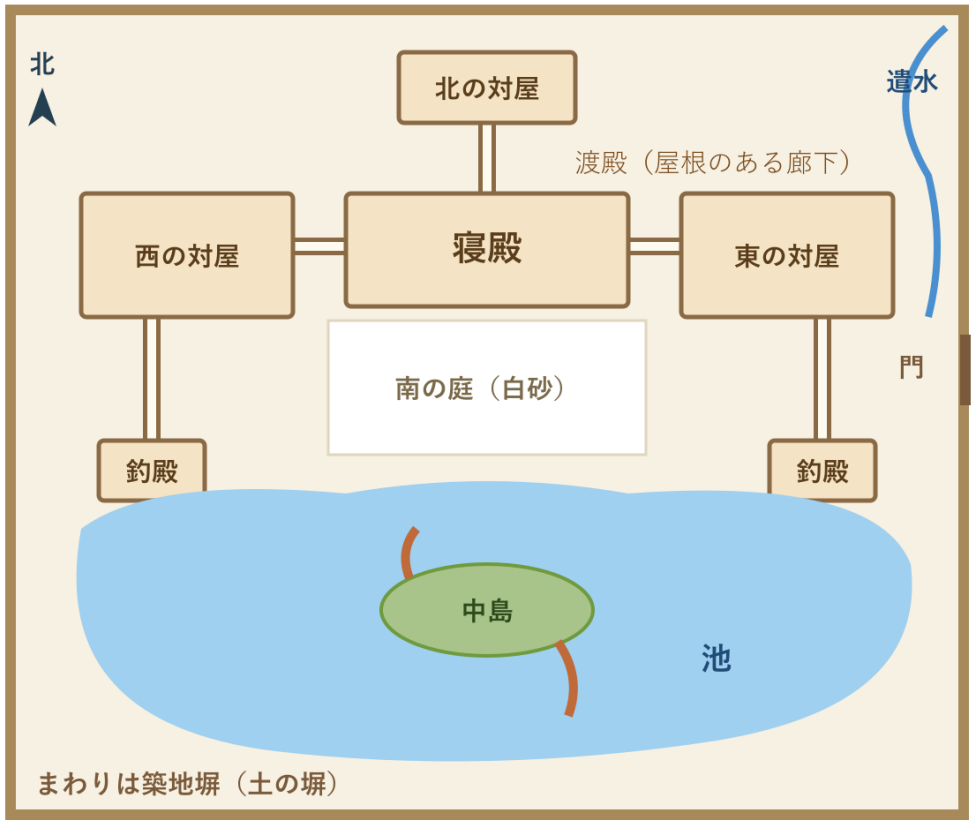
貴族のくらしと寝殿造

貴族はどのような屋敷でくらし、どのような文化が生まれたか

寝殿造の配置（上から見た図・代表的な例の模式）



南向きの寝殿を中心に、対屋を渡殿でつなぐ。

（配置は屋敷によってちがう。残っていないので、復元した形をもとにした）

貴族のくらしと、日本風の文化

■ くらし

和歌をよみ、年中行事や儀式を大切にした
藤原道長のように、大きな力をもつ貴族もいた

■ かな文字の文学

紫式部「源氏物語」
清少納言「枕草子」

■ 大和絵

日本の風景や、貴族のくらしをかいた絵

■ 服装

男性の束帯、女性の十二単など

住まいのくらべ

寝殿造（平安）
- 板じきの床に置き畳
- 屏風・すだれで仕切る

書院造（室町）
- たたみをしきつめる
- ふすま・障子で仕切る

→ 寝殿造の後、室町時代に書院造が生まれ、
今の和室につながっている。

※ 配置図は代表的な例の模式（復元をふくむ）。人物の絵や絵巻は使っていない。